

令和八年度

# 入学試験問題

(前期)(二月二十八日)

愛知学泉短期大学

## 国語

時間 六〇分

### 注意事項

- 1 受験票を机右上に提示すること。
- 2 試験終了までは退場はできない。
- 3 この時間は一〇時から一一時までである。
- 4 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」・「やめ」の合図による。
- 5 問題用紙・解答用紙が配付されても、「始め」の合図があるまでは見てはならない。
- 6 この問題用紙は、一〜五ページまでである。
- 7 解答は、すべて、**解答用紙**に鉛筆で正確に記入すること。
- 8 「始め」の合図とともに、**まず、解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。**
- 9 質問があるときは、黙って手を挙げること。
- 10 トイレその他気分の悪くなった場合は、申し出ること。
- 11 試験終了の「やめ」の合図があったら、ただちに筆記をやめ、**解答用紙の回収が終わるまで**席を立たないこと。
- 12 問題用紙は、各自持ち帰ること。



## 国語

(二月二十八日)

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「コワイ」と似た感情に、「<sup>(A)</sup>不安」があります。「心配」といつてもよいかもしれません。明日の試験は大丈夫だろうか、といった「先の状況のことについて」<sup>(二)</sup>漠然とした不快な気持ちです。「不安」は「恐怖」とよく似ていますが、「恐怖」は、はっきりとした対象があるのに対して、「不安」は漠然としたもので、はっきりとした対象がありません。

ほとんどの人は、「死ぬのがコワイ」といいます。しかし、それは恐怖というより、どうなるかわからないという「不安」なのです。

2つの違いを芥川龍之介の小説で見してみましょう。たとえば、芥川龍之介の短編「トロッコ」からの一節です。

「良平は一瞬間呆気にとられた。もうかれこれ暗くなる事、去年の暮母と岩村まで来たが、今日の途はその三、四倍ある事、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならぬ事、——そう云う事が一時にわかったのである。良平は殆ど泣きそうになった。が、泣いても仕方がないと思つた。泣いている場合ではないと思つた。彼は若い二人の土工に、取つて附けたような御時宜<sup>おじぎ</sup>をすると、どんな線路伝いに走り出した。」(芥川龍之介『蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ』岩波文庫、1990年)

一人遠くに来てしまった主人公、良平を捉まえているのは、これからどうなるかわからない、という「<sup>(B)</sup>」です。

同じ芥川の「蜘蛛の糸」には次のような表現があります。

「ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限もない罪人たちが、自分ののぼつた後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼつて来るではございませんか。鍵陀<sup>かんだ</sup>多<sup>だ</sup>はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、莫迦のように大きな口を開いたまま、眼ばかり動かして居りました。」

鍵陀多の表情は半分はのぼつてくる罪人たちへの驚き、残りは糸が切れることへの「<sup>(C)</sup>」が表現されています。

日本のホラー映画は基本的に「不安」を煽るようにできています。名作ホラー映画『リング』の有名なキャッチコピー「きつと来る」に代表されるように、「コワイものはまだ見えていない」のです。なにかが現れそう、なにかコワイことが起こりそうな予感や雰囲気があるとすることが<sup>(D)</sup>真骨頂です。日本のホラー映画は「不安」を<sup>(三)</sup>カンキするように作られているのです。

長い時間をかけて、いよいよ現れた<sup>(四)</sup>ユウレイも、主人公の貞子がそうであるように顔を現してはいません。つまり、コワイ対象をはっきり見ているわけではなく、あくまでも不安の上に不安を重ねるような作り方がされています。はっきり描くのではなく、恐怖の対象を見る人の想像力にゆだねるのです。

それに対して米国でのホラー映画は、あまり<sup>(五)</sup>前振りはなく、いきなり<sup>(四)</sup>不気味なものやチェンソーや鉋<sup>かんな</sup>をもった狂気的な人物が出てきて、登場人物をこれでもかこれでもかと執拗に追いかけ回します。凶器がはっきりと<sup>(五)</sup>ウツし出され、怖れる対象が明確に表されます。身体を傷つけ

れるシーンも明確に描かれ、生の痛さが伝わります。つまり、米国のホラー映画は、はつきりと「恐怖」を対象としているのです。

どちらも「コワイ」ホラー映画ですが、<sup>(F)</sup>文化によって違いがあるのは興味深いことです。

(川合伸幸「コワイの認知科学」より)

(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(一)～(五)のカタカナは漢字で書き、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線部(A)「不安」の対義語を熟語で答えなさい。

問三 空欄 B、C に入る言葉を本文より抜き出し、答えなさい。

問四 傍線部(D)「真骨頂」の意味を答えなさい。

問五 下線部(E)「前振り」とは、どのようなことを指しているのか。本文の言葉を用いて、簡潔に答えなさい。

問六 下線部(F)「文化によって違いがある」とあるが、日本人と米国人がそれぞれのようなものを怖れるのかについて、本文の言葉を用いて、簡潔に答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

他者は予測不能な存在です。議論のシミュレーションならば自分一人でも可能ですが、たとえばAIが進化しても、生身の人間の反応はシミュレーションどおりにはいきません。

いってみれば、テニスの練習と似たようなものです。たくさん壁打ち練習をすれば、ある程度までは上達するでしょうが、限界があります。当然ながら、壁には意志がありません。打ったボールがどう返って来るかは物理法則に<sup>(二)</sup>則っているため、おのずと瞬時にパターンを読むクセがつきます。しかし、生身の人間は勝つという意志のもとで思考し、戦略を立てます。相手が<sup>(三)</sup>フイにスライスを打ってきたり、かろうじて打ち返したボールにボレーを決めてきたりと、予想外の動きをする試合で勝てるようになるには、生身の人間を相手とした実戦練習を積むしかありません。

これと同じく、議論し、合意形成する練習は、どうしても他者の存在がなくてはできないのです。自分の中で筋道を立てる内的整合性をもつことは自分一人でも検証可能ですが、<sup>(三)</sup>それが他者にとって理解可能か。整合的であると納得してもらうには、どう言葉を尽くして話したらいいか。しっかり伝わるようにするための言葉の選択力やコミュニケーション能力も、やはり実際に他者と話してみる中で磨かれるものです。

**A**、一人で学べることと一人では学べないことがあると自覚し、「独学のギア」と「他者と共に学ぶギア」を<sup>(四)</sup>適宜、切り替えられるようになることが重要です。独学は独学として自分一人で学びを深めつつ、その限界もきちんと認識して、他者と共に学ぶ機会を積極的に求めていく。そういう状況をあえて設けでもしなければ、自分が考えていることの外的整合性を、自分で振り返って検証するなどという努力は、なかなかできないのではないのでしょうか。

そこで、もっとも重要なのは「粘り強さ」です。笑いの絶えない<sup>(五)</sup>和やかな場をつくりたいとか、相手と仲よくなりたいといった場合は、楽しく朗らかなコミュニケーションができるに越したことはありません。ディベートのように相手を言い負かすことが目的の<sup>(六)</sup>場では、相手のロジックの穴をことごとく突いて追い込む能力が求められます。この2つの例からもわかるように、<sup>(七)</sup>どのようなコミュニケーションが求められるのかは、その場の性質や目的によって異なります。

合意形成に向けて議論を重ねる場合は、<sup>(八)</sup>歓談の場ともディベートの場とも違うと思ってください。最初のアイスブレイクはともかく、楽しく朗らかなだけでは踏み込んだ議論ができません。相手を言い負かそうとするような態度では、議論のテーブル自体を壊し、合意形成の可能性を自ら断つてしまいかねません。合意形成を目的とする場で求められるのは、言葉を尽くして自分の意見を伝え、相手の意見にも<sup>(九)</sup>真摯に耳を傾けることです。

(斉藤 淳「アメリカの大学生が学んでいる本物の教養」より)  
(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(六)「場では」はどの言葉にかかるか、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ロジック      イ 突いて      ウ 追い込む      エ 求められます

問二 傍線部(一)「則って」、(四)「適宜」、(五)「和やか」の読み方をひらがなで答えなさい。

問三 傍線部(二)「フイに」を漢字に直しなさい。

問四 傍線部(八)「歓談」、(九)「真摯に」の意味は何か、簡潔に言い換えなさい。

問五 空欄 **A** に入る適切な言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア しかしながら      イ もっとも      ウ ですから      エ なぜなら

問六 左の文章が、傍線部(七)と同じ意味なら「○」、異なるなら「×」、どちらとも言えないなら「△」と答えなさい。

その場の性質や目的によって、求められるコミュニケーションが異なります。

問七 傍線部(三)「それ」の指す内容について、「整合性」の意味を明らかにして二五字以上三〇字以内で説明しなさい。

問八 文章記述のフレームワークの一つである「PREP法」に関する【例題】を参考にして、【本題】に答えなさい。

【例題】 問い

私のアルバイト先に、仕事ができる先輩がいます。ミスなくテキパキ動き、忙しくても笑顔で接してくれます。どうしたら先輩みたいになれるのかと聞いたら、「健康第一」という返事でした。さて、あなたには目標とする人がいますか？

【例題】 解答例

結論P (point)

私はコンビニでアルバイトをしています。私にも憧れの先輩がアルバイト先にいます。年齢は一つ下ですが、私より2か月早く働き始めています。

理由R (reason)

その人も、とんでもないほど仕事ができます。私などレジの仕事だけで緊張してしまうのに、その人はオールマイティなのです。

具体例E (example)

コンビニは商品を売るだけでなく、宅配とか公共料金の振り込みの対応とか様々な業務があります。先輩は何でもこなす上に、チェーン店内の総菜パンレシピコンテストで第1位になりました。近々商品化されるそうです。

結論(言い換え) P (point)

先輩は「専門性を身に付けて役割を果たすのは当たり前として、私の仕事が生世の中に貢献できていたらうれしい」と言っています。

【本題】

本文では、「合意形成を目的とする場で求められるのは、言葉を尽くして自分の意見を伝え、相手の意見にも真摯に耳を傾けることです。」とある。高校生の諸活動において、発信力と傾聴力を磨くにはどのような場面があるか、「PREP法」を用いて答えなさい。

【三】「アブダクション推論」に関する説明及び【例題】を読み、以下の【本題】に答えなさい。

※アブダクション推論（逆行推論・仮説推論）

観察された事実から最も合理的な仮説を導き出す論理的思考法。不完全な情報から最も可能性の高い説明を見つけ出すことを目的としている。答えが一つに定まらない課題を解決する際、検証する前に仮説を立てること。（生成AIの説明による）

【例題】

事実

畑の跡地に井戸を掘っていた。地下50cmのところから、貝殻が複数出てきた。調べてみると、それらは海の貝であった。

仮説

この場所は太古、海だったかも知れない。

検証方法

- ① 近辺の同年代の地層を、複数箇所掘ってみる。
- ② 貝の出た地層の他のサンプルを調べる。
- ③ 貝そのものの、年代測定をする。

↓ 結果として、仮説が的外れでも構わない。もしかしたら、祖父が畑の土壌改良をするために貝殻を埋めたのかも知れない。ただし、思考の活性化のために、仮説を立てることが第一歩となる。

【本題】

問一 文化庁の日本語に関する調査によると「そろそろ潮時だ」という言葉の意味を「終わり時」と誤解していた人が45%にのぼる。さて、なぜそうなったのか、可能性の高いと思われる仮説を三つ立てなさい。検証方法は解答不要。

問二 あなた自身は「そろそろ潮時だ」の意味を「ちょうどよい頃」と知っていたか否かを明確にしなさい（課題解決の姿勢及び表現力を測る問題であり、採点及び合否判定とは無関係）。さらに、当事者意識をもって考え、今後どのような方策によって語彙力を高めるか、自らの課題を解決する策を一三五字以上一五〇字以内で記述しなさい。

